

Venezuelan Cattleya Part1

ベネズエラのカトレア その1



カトレア・ルデマニアナ

カトレアの自生地という多くの方はブラジルを思い浮かべるとと思いますが、実は1枚葉の大輪系カトレアの多くはベネズエラが原産地です。ベネズエラは南米に位置しますが北半球にある国です。ですから私たちの住む日本と基本的には同じ生育のサイクルでカトレアは育っています。主なベネズエラ産のカトレアは大西洋沿いにある海岸山脈と、エクアドル、コロンビアから連なるアンデス山脈のちょうど交差するあたりのララ州・パーキシメートという町から車で2時間くらいのところに生えています。不思議なことにこの近くに生える3種のカトレアは混じり合って生えることはなく、それぞれすべて別々の山に自生します。



ルデマニアナの自生地



ルデマニアナの自生地近く

このあたりの季節は雨季と乾季に分かれ、5月頃から11月頃までが雨季、12月頃から4月頃までが乾季となります。乾季にはほとんど雨は降りませんが、毎日霧がかかり、株へ最低限の水分補給をしています。このあたりに一番多く生えているのはC.mossiae カトレア・モシエで乾季の最後、ちょうど雨が降り始める4月初めに開花します。そして

C.percivaliana カトレア・パーシバリアナは雨季の後半10月頃に開花し、C.lueddemanniana カトレア・ルデマニアナは乾季の中半1~2月に咲きます。カトレア・モシエとカトレア・パーシバリアナはコロンビア側からのびてくるアンデス山脈の標高がおおよそ1000~1400mほどのところに自生します。モシエは明るい日光が良く射す樹の上に大きなコロニー（群落）を作ります。パーシバリアナはほとんどが直射日光の良く当たる岩の上に着生し、大きなコロニーにはなりません。モシエは生育が旺盛で、現地ではほとんど手をかけなくても育つため、自生地近くの民家にたくさん飾られています。



モシエのコロニー



民家に咲くモシエ

ルデマニアナは海岸山脈の標高600~1000mのかなり乾燥した場所に生えています。ルデマニアナの生えるところは雨季になってもあまり雨が降らないようです。日中はとても暑くなり40℃を超えることも珍しくありません。大西洋から100km以上内陸ですが、海から吹いてくる風が海岸山脈を越え、霧となってくるようです。周囲にチランジアが多く生えることから霧の多い場所であることがよく分かります。ルデマニアナは樹の上に着生しますが、おそらくこのような気象条件のために大きなコロニーにはなりません。ルデマニアナの近くではシオンバーキアやブラサボラ、オンシジウム・セボレッタなどやはりやや乾燥気味の気候を好む種類の蘭が多く生えています。

このような現地の気象条件を栽培のヒントにするとそれぞれの栽培の水やり、日当たりなどに細かな差を付けることができるかもしれません。原種の栽培は「現地の気候を良く知って」が最大の成功の秘訣です。

このほかにもベネズエラ産のカトレアはありますが、またの機会に

ご紹介したいと思います。ベネズエラのすばらしいカトレア、ぜひ大きく育ててお楽しみ下さい。



岩に着生するパーシバリアナ



パーシバリアナの自生地近く



シオンバーキアのコロニー